大阪国税局長賞

「助けて」と言える社会

城南学園中学校３年
坂口　沙衣

「役所に電話するで、このままじゃあかんから」と父は言った。去年のお盆過ぎに、父の経営する不動産会社に一本の電話が入った。「もう、家賃が払えません。」と苦しそうに話す入居者さんに対して、父はすぐに会いに行った。元々、恰幅の良かった入居者さんは、かなり痩せていて、部屋は、エアコンもかかっておらず蒸し風呂のような状態だった。話を聞くとコロナの影響で仕事がなくなり、次の仕事を探しているが見つからず、一週間くらい、ほとんど何も食べずに水だけを飲んで生活している状況だったそうだ。

父は、命の危険もあると判断して、すぐに区役所に連絡を入れた。区役所の担当者さんは、「それは、危険な状態だと思いますので、すぐに行きます。」と電話を切り、すぐに駆けつけてくれたそうだ。その日のうちに、入居者さんが父の元を訪れ、「区役所の方と話をした結果、生活保護の受給が決まりました。本当に助かりました。ありがとうございました。」と報告してくれたそうだ。一生懸命長年働いて来た人が、どうしようもなく困った時、気持ちにも余裕がなくなり、相談する人もなく、悩み苦しんで一人で真夏の暑い部屋にいたと思うと本当に怖くて、つらかっただろうなと心が苦しくなった。

生活保護制度は、生活保護法により、憲法が定める健康で文化的な最低限度の生活を保障し、積極的にそれらの人々の自立した生活ができるよう援助する制度である。生活保護の申請は国民の権利であるが、ギリギリまで「助けて」が言えない人がいる。

新聞やテレビの報道を見ていると、税の使われ方に厳しい目が向けられていることが多い。私達が、目にすることが少ないところで、ひとつの命を守る税の使われ方がされていることも事実である。「助けて」の一言が言えれば、助けてくれる人や税の仕組みはある。

ニュースでは、報道されない、世間では関心が少なく、小さなことだと捉えられている出来事にも、大切な税が使われていることに、気づいていない人達が多くいるのではないだろうか。私は、困った時に気軽に「助けて」とみんなが言える社会をつくり、国民の豊かな生活を守るために使われる様々な税について知ることが、税の理解を深めることに繋がるのではないかと考えている。

現在の入居者さんは、どうしてるかと言うと、働く場所が見つかり、恰幅の良い姿を取り戻して、父に会うと、元気よく、笑顔で挨拶をしてくれるらしい。私は、将来看護師を目指している。病院には、体調が悪く苦しんでいる方が沢山いる。そして、その中には、生活に苦しんでいる方も多くいるはずだ。

そんな方達に寄り添える看護師になりたいと思っている。

私は、数年後、看護師として働いて、一人でも多くの笑顔があふれる社会のために、一人の納税者として、国民の義務を果たしたい。